# 妄動

與謝野寛

青空文庫

# 目次


明治三十二年 5
明治三十三年 8
明治三十四年 10
明治三十五年 12
明治三十六年 14
明治三十八年 16
明治四十年 19
明治四十一年 20
明治四十二年 21
明治四十三年 24
明治四十四年 26
明治四十五年 28
大正元年 31
大正二年 37
大正三年 39
大正四年 42
大正五年 44
大正六年 47
大正七年 48
大正八年 57

×

われは曙にさまよふ影なり、
亡びんとする或物なり、
亡ぶるを否み難きものなり。
われは珊瑚の色したる灰なり、
暮れゆく春の竈場なり。

われは自ら憐んで描きぬ、
わななきて氷の上に傾く焚火を。
おお、この崩れ落つる火の傷ましさ、
熱もなく、音もなく、寄る人もなく……
唯はかなげに、青みつつ薄赤し。

×

わが行手こそ闇なれ、真冬なれ、
あまたの児を伴れし乞丐の孤独なれ。
苦痛へ、苦痛へ、氷の路へ……
「生」の嵐は無残の爪を垂れて我に掴みかかる。

我は常に臨終の如く呼吸ぐるし、
高く悲鳴し得ざる所以なり。
はた、我は報復を想はず、
怨むべき標的をさへ失ひしかば。

ただ恃むは、わが瞳猶光れり、
水の底の黄金の如く。
また恃むは、我に抗ふ力残れり、
負傷ひし獣も猶その角を敵に向くる如く。

やはか、我を棄てじ、
生き得る限り生きん、生返らん。
恥辱も寧ろ我命を刺激する酒となり、
老も却てわが明日の糧とならん。

我は、かよわく、蒼白き全身を露出し、
前に倒れし人人の血にのめりつつ進む。
苦痛へ、苦痛へ、闇の路へ……
我は、かの「虚無」に融け得ざれば。

×

ゐざりよ、ゐざり、ことことと、
ゐざり車を漕ぐゐざり。
往来の多い街中の
しき石路や、ぬかる路、
雨のふる日も晴れた日も、
樫を削つた木の片を、

堅い二つの櫂にして、
強い駱駝が根気よく
長い沙漠を行くやうに、
醜い風姿を日に曝し、
そことめあては無いながら、
亀の歩みを続けてく。

ゐざりよ、ゐざり、こととことと、
ゐざり車を漕ぐゐざり。
彼れは素性も生国も
とくの昔に忘れてる。
青い額に、どして、また
生れた日なんか思ひ出そ。
黒い苛酷な宿命の
悪病ゆゑに身は腐り、
親きやうだいに捨てられて
唯もう常に飢ゑてゐる。
以前は人を怨んだが、
そんな余裕も今は無い。

ゐざりよ、ゐざり、こととことと、
ゐざり車を漕ぐゐざり。
その淋しそな、単調な
車の音に合せつつ、
痺れた口を張りだして
断えず歌ふは歌でない、
慰めがたいたましひが
爛れた肉を噛み裂いて
おのが黒血を啜り上げ、
唯くるしさと、ひもじさを
刹那々々に投げ出だす
荒い、短い、呻きごゑ。

ゐざりよ、ゐざり、こととことと、
ゐざり車を漕ぐゐざり。
すべて忙しい世の中に
乞食の歌を誰が聞かう。
路ゆく人は目を反せ、
おまはりさんは叱り飛ばし、
わんぱくどもは石を投げ、
馬車、自動車は脅かす。
華奢な街家を外に見て、
地にへばりつく憂き身には、
風も邪慳に吹きつける、
雨もはげしく降りかかる。

ゐざりよ、ゐざり、こととことと、
ゐざり車を漕ぐゐざり。
大川端をあるく時、
彼れは折々おもひつめ、

いつそ死のかと、楽しそに
水をば覗くこともある。
しかし、木賃の片隅に、
彼れの子供が待つことを、
思ひだしては、曇つてた
瞳の奥に火が光り、
「ああ、生きてたい」かう云つて、
また漕いでゆく、こととと……

×

われにも家あり、
花もなく、光もなく、愛もなく、飾りもなく……
くろがねを経緯にして作り、
獣に於て檻と呼ぶもの、
これ、わが家なり。

無限の苦痛に対して
早く、わが感覚は慣されたり。
わが家は地の底に建ちて、唯だ冷し、
石および氷よりも冷えし中に、
われは黙々として妄動す。

そは効果あるか、無駄なるか、
われ知らず。

唯だ、妄動は我が今日のすべてなり、
明日も然らん、明後日も……

我は久しく太陽を見ざれど、
恐らく、彼は音の如く天の半を横ぎるならん、
太陽のために賀す、既に汝の脚の用なきを、
わが閾は汝の訪はぬままに、静かに暗し。
いみじき光を有つ多くの星も、はた、
かの最も高き空の奥に遊びつつ、
我に一瞥だも投ぐる暇なからん、
我は其等の星をも賀す。

我は知る、この檻の家を出づる期なきを、
また知る、孤独は我が純清の「真」を汚さざるを。
なつかしきかな、狭く、つめたき鉄の家よ、
借物ならぬ我力もて、我はここに妄動す。

よさの・ひろし

# 青空文庫情報

底本：「三田文学」三田文学会
1913（大正2）年5月号
※「旧字、旧仮名で書かれた作品を、現代表記にあらためる際の作業指針」に基づいて、底本の旧字を新字にをあらためました。
※底本の署名には、「よさの・ひろし」とあります。
※本作品中には、身体的・精神的資質、職業、地域、階層、民族などに関する不適切な表現が見られます。しかし、作品の時代背景と価値、加えて、作者の抱えた限界を読者自身が認識することの意義を考慮し、底本のままとしました。（青空文庫）
入力：武田秀男
校正：門田裕志
2003年1月23日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 妄動

與謝野寛

2026年10月1日　第二版

## 奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/